

〔資料紹介〕 6の(二)

日隆大聖人募縁誌 上下

舜竜院日蒼著

十二丁ウ

應永廿七歲、師乎、御年三十七歲、為宗弘開化ノ赴下

于西海ニ。宿下ヲ途ニ于攝西尼ケ崎巽ノ濱治郎五郎ノ家ニ。夫婦

及ヒ一家咸ク授戒ス。于時、領主細川右京大夫也者、有_レ其

婦孕_レ已ニ五月乎。痛傷_レ而、不_レ尋常_ニ。使_レ相者_ヲ於_レ筮_ニ。相師起_テ

竹ト_コ云ク。危_レ哉。母子俱ニ凶殆也_ト矣。大夫慨然_ト云ク。那_レソ_レカ免_レ之_ヲ

乎。相者云。非_レ所_ニ人力ノ能_ク及_フ、弗_レ如_ク祈_テ請_セン_ニハト_テ於_レ佛神_ニ矣。

乃、撰擇_{スル}ニ於_レ加持_ニ之_レ行者_ヲ而、或夜、大夫夢_ル。鎮主八幡大神

親_レ切_ク告_テ曰ク。巽_ノ濱_ニ往_ル來_ル之高僧_ヲ請_テ於_レ日隆_ノ聖_ニ而、當_レ請_テ

祈_テ請_フ云。則_チ尋_ニ求_ス朝_ニ乎。師_ヲ於_レ巽_ノ濱_ニ、伏_テ而請_フ於_レ救護_ニ乎。

師乎、許諾_シ而、祈誦_ス懺_也。經_テ於_レ日_ニ平_ニ産_ス。母子_ニ安然_トリ。右

十二丁ヲ

京大夫、歡娛_シ不_レ止_ス。布_テ謝_ルニ於_レ珍奇_ノ雜寶_ヲ、弗_レ師乎_ノ肯_テ受_テ

之_ヲ。告_テ大夫_ニ以_テ精舍_ノ建立_ニ之_レ宿志_ヲ乎。大夫至信_ニ許諾_ス。直_ニ

獻_テ於_レ八幡_ノ社地_ニ八町_ノ苑囿_ヲ。則_チ請_テ于_レ社_ニ、ト_ス於_レ境_ニ乎。大夫

謂_テ云ク。吾_ガ先祖_ノ累代_乎、於_レ祖神_ノ八幡_ノ宮_ノ社内_ニ備_テ寶劍_ヲ乎。

而_レ此年來_ニ紛失_シ不_レ知_ラ久_ク於_レ處_ニ乎。于時_ニ亦近_ク去_ル年頃、僅_ニ有_リ

錦袋_ノ之_レ端耳_ヲ。實_ニ奇_{ナル}哉_ト云。隆尊者_ヲ以_テ爲_ス。先_ニ吾_ガ父_ノ所_レ授_ル

劍ハ者是レ化人乳母之所與ル矣。師乎試ニ謂テ云ク。有テ吾ニ於劍。所レ與レ化人乳母ノ矣。則シテ示シ其來由マ、徐々ト所レ使シ看解於劍ヲ平右京、大夫也。大夫熟シ看テ愕ト云ク。劍哉劍哉。又錦袋宛カニ合テ符節ヲ乎。甚ト是レ也。斯ノ事哉。所レ以テ為ルニ神乎神上ニ者、厥レ如レカ許、

(欄外に別筆の書き込み二行。註⑩参照)

十二丁ウ

歟。師之乳母乎、實ニ吾カ鎮主大神也ル者哉、毛豎跪座ヲ以、或ハ驚、或ハ信。終ニ改社地ヲ作ル於佛閣。額ニ本興寺。改テ鎮主ヲ、為テ三十番神ト焉。

應永三十三年。隆尊者御年四十三歳。越中州高岡、故御父尚儀公ノ老臣、元成也ル者來テ于攝西尼ヶ崎ニ

謁テ于師ニ云ク。遇テ于今吾カ國中兵乱ニ不レ忍ヒ人民ノ哀ミ于聞テ。桃

家方危キ且夕也。謂レ應テ謂テ師乎疾ク還國ヲ。以テ速カニ摘テ於敵兵ヲ

正ニ繼テ於家系ヲ、以テ明カニ行テ於徳政ト矣。謹テ再三再四不レ止マ焉。

師乎、無テ云何モスル、取テ鏡ヲ自手割テ木像ヲ。著テ於慈悲衣ト與忍鎧ヲ

其ノ形容、威テ不レ猛則シ與テ元成ニ云。不レ若シ吾カ於戰場ニ乎此、

十三丁ヲ

木像上。汝テ其レ謹ト矣。元成拜誓首ト而、還テ魏々トシ舉ルニ義兵ト而、成テ

日隆大聖人募縁誌 上下

以^ニ師之象像^ヲ於將^ト。讖^{ナル}哉、使^ト伏^レ於敵將^ヲ而、降^ト。聿^ニ本領
平治^ス云云。此象像于今^ニ藏^レ洛本能寺^ニ焉。既^ニ而後^ニ師乎、
歸^ニ到於鄉國^ニ、為^ニ父母^ヲ建^ニ一精舍^ヲ。越中高岡本光寺是
也。歲之秋歸洛之船、著^ニ于越前州色^テ之濱^ニ。于時^ニ死^ル疫病^ニ

者夥^シ。請^テ師^ヲ於加持^ヲ。則^テ師乎、祈^テ誦^テ感^テ以^テ海^ヲ渚^ノ石上^ニ

病魔倏忽^ト去^ル焉。村民歡喜之餘、改^テ宗^ヲ建^テ寺^ヲ供養^ス。額^ニ本

隆寺^ト誦^テ題^ス隆尊者、立^テ于海濱^上、讖爾^ト云ク。不^レ有^ニ此^ノ鄉永^ク

疫病・難産・火難^ニ云云。一村感涙^シ而、合^テ掌^ヲ、唱^テ云ク。本門八品

上行所傳之南無妙法蓮華經、々々、々々矣。師乎亦悲

十三丁ウ

愍^シ而、歡喜^シ慈眼差乎^{トシ}、自^ラ解^テ於顔^ヲ、乃^チ微呼^シ于石上^ニ而、詠^テ

萬葉之長歌^ヲ。今^ノ色^ガ之濱^ノ謠是也。師乎以^テ事^ノ之有^レ緣

信^ニ宿^ト于敦賀縣、紺屋五郎右衛門^ノ之家^ニ。在^ニ于田家^ノ

惣社氣比大神^也。神之本地寺^ニ在^ニ于蜜宗日照山大
勝寺^ノ圓滿法印^也者。待^テ師之到^ル焉、忿然^ト敵^テ於論^ヲ

諍^テ宗乘^ヲ、欲^シ決^シ邪正^ヲ乎、蕩々魏々^ト亦喧々^ト乎。嗚呼如^キ本

化^ノ雄辨利劍^{以テ}割^ル於瓜^ヲ。似^テ巧於難問答^ノ智力、磐石^{以テ}

摧^レ於^レ卵^ノ。蓋^シ難問答和^レ殆^ト。三日四夜、終^ニ社僧等屈伏懺悔^シ而、成^リ御弟子^ト。隆尊者憐^レ之ヲ以^テ賜^ラ正法院日從^ニ之名^ヲ。改^ム寺^ヲ於^テ本勝寺^ト也。從^ヤ乎、色心齊^ク改悔^ス。厥^レ宿昔^ノ智勇^{ナル}

十四丁ヲ
者也。

人王百三代、後花園院ノ御宇、永享元己酉 師乎御

年四十六歳、在^リ于^テ尼山本興寺^ニ。寔^モ哉成^リ桃李^ニ於^テ蹊^ヲ而、

信男信女之車馬連聯^ヲリ焉。京洛ノ信士、小袖屋^ノ宗句^也也。

者、以^テ兼^テ知^リ己^ノ故^ニ、詣^テニ^テ攝西尼^ノ崎之學室^ニ、謁^シ于^テ師^ニ、蒙^リ

法化^ヲ、下種速疾^ノ大猷^命于^テ肝^ニ、染^リ于^テ心腑^ニ。成^リ信檀^ト。所以感^ル

宿縁^ヲ與^フ。嗚呼、師^ヤ乎、偶々^告告^リ宗句^ニ曰^ク。欲^ク有^リ吾^ニ於^テ願志^ニ、ト^シ

于^テ洛陽^ノ之地^ヲ建^テ立^セキ^ニ於^テ一精舍^ト、日^ニ已久^シ焉。句^乎乎、泝^リ其^ノ助^ヲ

否^ヤ乎。宗句拜^シ而諾^ス。而去^リ歸^リ于^テ洛陽^ニ。始^テト^リ於^テ西京聚洛^ト

草^ヲ創^ス於^テ寺^ヲ。名^ヲ本應寺^ト。千本通朱雀^ノ之^ノ邊^ニ。隆尊者、移^リ來^リ于^テ于

十四丁ウ
焉。造^リ作^リ四帖抄^ヲ、廻^リ達^ス于^テ洛中^ノ之^ノ諸寺^ニ。無^シ諸山默^シ所^ト

日隆大聖人募緣誌 上下

レ言フ、或云兼日怨嫉月明。爾^ハ這西ノ京聚洛之境界也^ル者、始^メ邪徒ノ流類怨恨未^レ解^ケ云云。日道聖人之艸庵也矣。斯^レ地弘經ニ不^レ便^ナラ故ニ後ニ改^ム之^ヲ。

永享五年癸丑。師乎御曆四十四又九。於^テ三條西ノ洞

院、需^ム一^ト得^ル於^テ方四町之勝地^ヲ、移^シ本應寺^ヲ而、建^ツ二欄若^ク、信

檀如意王丸ト矣。或^ハ宗句之叟^ト歟。于時、改^ケ應^ヲ而、作^ル能^ニ焉。

永享七年乙卯。隆尊者、御壽五十二歳、綴^ル弘經抄^ヲ。

於^テ本能寺、有^リ唱^ル於^テ閑然^{タル}窓外^ニ而、本門八品上行所傳、

南無妙法蓮華經^ノ者^上。師于、竊^ニ以^テ為^ス所^レ競^フ宿昔^ヲ、知^リ己^ヲ

乎^ニ歟。即^チ起^テ、開^ケ扉^ヲ、莞爾^{トシ}、問^フ于^テ云^ク。探^ル今^ヲ乎、闔^ク國^ヲ、無^ク稱^ル上行所

十五丁ヲ

傳^ル之首題^ヲ者。風^{カニ}聞^ク、在^テ駿州岡ノ宮光長寺徒、本果日朝

也^ル者而、畜^ニ稱^ト本化所傳之首題^ヲ矣。哉^ハ乃^チ仁者豈^ニ不^レ其^ヲ、

人^ニ乎。旅僧、頓首^シ云^ク。唯^ニ乎。我實^ニ日朝也^ト矣。令^レ私^ニ師^ヲ乎^ヲ携^テ

於^テ手^ヲ、以^テ座^ニ于^テ床^上。談話猶^ラ舊^ヲ知^ル也。朝^乎能^ク問^フ。師^乎乎^{切^ニコ}

答^フ之^ヲ。問^答釣^リ連^ト。豁^乎。亦、沈^々忪^々焉^ト。今^世稱^ル十三問

答^ト者是也。聿^ニ以^テ朝公師之禮^ヲ拜^ス悲^憐之^ヲ為^ス弟子^ト

隆尊者教令^シ曰^ク。應^ト身^ニ輕^ク法^ヲ重^ク染^ム於^テ心^腑矣。朝公盟

誓_レ云_ク。唯_ハ矣_ハ。亦_レ云_ク。在_レ々諸佛土常與師俱生_ヤ乎。師尊
圖_レ之_マ、縱_レ令_レ雖_レ也_モ異_ニト於年月_マ、日_ヤ乎是同_シト。其於日_ヲ死_スト矣。乃_モ懸_ニ
期信_ヲ於法性之淵底_ニ、騰_ニ弘誓_ヲ於玄宗之極地_ニ、去_ル也哉。

十五丁ウ 龍讚_ノ云_ク。

於戲斯ノ師弟乎 久遠ノ師弟也_ル者_カ

厥獅子奮迅力 其自在神通力

抑_モ大勢威猛力 弗_ニ宿緣_ニ無_ニ小果_ニ

况_ヤ大_ヲ乎何_ニ况_ヤ本_ヲ 度_レ國_ニ度_レ機_ニ知_レ時_ヲ

朝公於岡ノ宮_ニ、宗弘莫大也。終_ニ十月廿五日入寂_ス。今_ニ焉_ニ不_レレ詳_ク。

永亨十一年。師尊壽齡五十六歲。之_ニ于河州加納

邑_ニ。強_ニ化_ス於斯波義盛_ヲ而、令_レ授戒_ス。建_ニ於法華寺_ヲ也。蓋_シ義

盛_ハ者、師之祖父義將之子也。義盛_ハ者則_シ師之甥_ヲ

十六丁ヲ 也。宿緣_ヲ交稱_スハル哉。田里水乏_シ矣。隆尊者、令_レ下_ニ祈誦_シ而沸_カ助_ス

日隆大聖人募緣誌 上下

於水_(レ)也。今遠近温_(レ)之ヲ、以_(レ)治_(レ)於諸病_(レ)。又、奇事數_(レ)多_(レ)哉。往_(レ)而、可_(レ)見_(レ)彼_(レ)記_(レ)。是_(レ)以_(レ)不_(レ)委_(レ)。

嘉吉三年壬戌。隆尊者壽曆五十九歲。鑑_(レ)於本緣_(レ)、

之應_(レ)發_(レ)而、之_(レ)于淡州釜口妙勝寺_(レ)。弘法教化_(レ)。寺檀齊_(レ)、

授戒_(レ)矣。宿_(レ)途_(レ)於攝西兵庫_(レ)津_(レ)。契_(レ)信士某法化_(レ)乎。信士

廉直_(レ)而、正路也。師乎賜_(レ)為_(レ)於正直屋之號_(レ)焉。

寶德三年辛未。師尊御年六十有八。泉州堺市銚

屋某、木屋某也_(レ)者連年信_(レ)。師之法流_(レ)。築_(レ)於本門_(レ)戒

檀_(レ)。額_(レ)顯本寺_(レ)。令_(レ)以_(レ)於_(レ)師之高弟日淨上_(レ)為_(レ)住持_(レ)也。

十六丁ウ

同年有_(レ)所以_(レ)牽_(レ)于緣_(レ)者_(レ)。薩州種子_(レ)カ嶋ノ沙門、有_(レ)林應也_(レ)者_(レ)。

久_(レ)上落_(レ)而、修_(レ)學_(レ)於_(レ)寺山之兩門_(レ)、三_(レ)十年于茲_(レ)也。方_(レ)欲_(レ)

還_(レ)于_(レ)西郷_(レ)而、求_(レ)於_(レ)便船_(レ)、邂逅_(レ)來_(レ)于_(レ)泉之砂界_(レ)。信宿_(レ)殆_(レ)

有_(レ)違_(レ)而、一日所_(レ)誘_(レ)信衆_(レ)而、往_(レ)謁_(レ)淨公之講下_(レ)乎。所_(レ)宿

善_(レ)薰發_(レ)スル哉。每_(レ)拜聞_(レ)、驚覺回_(レ)心_(レ)。直_(レ)抱_(レ)於_(レ)弗_(レ)、改悔_(レ)、粗曉_(レ)天

台過時_(レ)物怪_(レ)。則_(レ)詣_(レ)尼崎_(レ)謁_(レ)于_(レ)隆聖_(レ)。宣_(レ)暢_(レ)。尊者悲

愍_(レ)而本法_(レ)乎。本化_(レ)猛勢懸河_(レ)雄辯也_(レ)者、一_(レ)聞_(レ)而毛豎_(レ)。

慄爾(こもり)ヲリ。頻(しばしば)リ命(いのち)ニ于肝膽ニ而、鳴(な)ク泪(なみだ)為(な)レス雨(あめ)ヲ。頓(とん)ニ改(かへ)テ宗乘(しゆんじやう)ニ而、踏(ふ)ム本門(ほんもん)戒(けい)檀(だん)ノ闕(けつ)ヲ。逡巡(しゆんしゆん)トシ、信伏受戒(しんぷくじけい)、為(な)レ御弟子(ごでし)ト。以(もつて)ニ師(し)乎賜(たま)ニ日典(にってん)之名(な)ヲ。聿(すなは)チ侍(まじ)座(ざ)スル(ル)于隆聖(りゆうせい)、十年(じゅうねん)ニ而、化(まじ)ニ於本邦種子嶋(ほんぱうしゆんしじま)ニ。臨(まじ)マ

十七丁ヲ 其正(ただ)ニ欲(ほ)シ終(しま)シト時(とき)ニ、謂(いわ)チ云(い)ク。予(われ)レ不幸短命也。一嶋(ひとしま)之宗弘(しゆんこう)不(ま)レ周(まわ)ラズ

盟(まじ)ヲ云(い)ク。予(われ)レ應(おこ)シト後(のち)ニ來(き)テ而弘教(こうきやう)ニ云(い)ク。謂(いわ)ヒ畢(は)マテ、俄然(がくぜん)トシ化(まじ)ス也。有(あ)レ後(のち)ニ而、日

良學士也者。予(われ)レ實(まこと)ニ典(てん)カ再心也ト、髣髴(ふふせつ)トシ知(し)レト之(の)ヲ矣。所(ところ)下(くだ)以(もつて)シ猶佛(しゆふつ)ノ

為(な)レ天(てん)案說(あんせつ)借(か)下(くだ)於神道(しんどう)歟。又、所(ところ)下(くだ)以(もつて)シ慧思(けし)禪師(ぜんじ)ノ成(な)ル(ル)ニ聖德太

子(こ)ト(コ)者歟。不(な)レ詳(あ)カニ吾(われ)レ其(その)ノ所以(ゆゑ)ヲ。或(ある)ハ謂(いわ)ヒ奇詔(きしう)ト、亦謂(また)ヒ再身(さいじん)ト。風道(ふうどう)典(てん)カ

之習氣未(な)シ散(さん)セ。其良(よ)カ之志(し)機(け)谷(こ)貌(ぼう)、咸(みな)ナ似(に)ル(ル)于典(てん)ニ者(もの)ヲ如何耶(いかにせん)。

爾(なん)モ良(よ)乎、博學多才(はくがくたさい)ニ而、勝(か)ル(ル)于典(てん)ニ、若(ごと)ク倍(ばい)セリ矣。良(よ)乎、弘經(こうけい)之

辛苦大(おほ)ニ而、深切也。或(ある)ハ成(な)リ優婆塞(うわささい)ト、成(な)リ居士(くし)ト。頗(おほ)シ普門(ふもん)ニ味(あじ)ニ

而、亦不輕行之忘(わ)ル、恒迹(こうせき)ヲ者歟。終(つひ)ニ使(つか)ヒ一嶋(ひとしま)悉(しつ)ク授戒(じゆけい)ト。剩(あま)ハ及(およ)ビ

法化於藥簡(ほふくわやくかん)ニ乎、西海(さいかい)ノ弘法(こうぼう)、周(しう)ニ于諸州(しよしゆしゆ)ニ矣。門(もん)葉(えつ)謂(いわ)チ云(い)ク。本

十七丁ウ 因妙ノ種子嶋。本因妙ヲ簡(かん)フ嶋。本因妙ノ利益嶋(りやくじま)ト矣哉。龍讚(りゆうさん)ト云(い)ク。

嗚呼典哉良哉 佛子ノ佛子也者 凡ッ本因下種乘

折伏弘經ノ緇素 三障四魔必競ハシ 其ノ千辛厥ノ万苦

仰モ亦死身弘法 余幾回カ恭敬ノ賞ス焉

偉ナル哉口唱妙法力 隔生不忘亦奚疑

非下ニ濟度衆生不_レ_レ盡 吾黨ノ小子弘誓勵

吾ノ隆尊者哉、弘法無窮盡、就_レ中讚州宇多津本妙

寺、備中州新庄本隆寺、多_レ由緒一矣。

享德二癸酉。師乎、世壽七十歳、在_レ尼山本興寺。講

訓餘、伐_レ堂前數圍之榎樹_レ而、命_レ于泉之塚_レ佛工・淨傳

十八丁ヲ

以_レ令_レ造_レ於影像。今藏_レ於本興寺文庫堂、正御影尊是

也。後世渴仰鑑知_レ故與。亦在_レ師乎兼知_レ察、粗_レ定_レ本

末之階級_レ也。本能寺開山好學院日存上人、第二祖

日信上人、第三祖日明上人焉。本興寺開山精進院

日道上人、第一祖日登上人、第三(祖)日禎上人也。

師乎、自_レ雖_レ省_レ通_レ於階位_レ、後人仰_レ德_レ、感_レ功_レ、謂_レ開山祖_レ耳。

施_レ之_レ則_レ于本能寺_レ者弘通處、本興寺_レ者學問處_レ也。於_レ

諸末寺乎、砂界頭本寺者、西南國末寺の首也。敦賀本勝寺者東北國末の頭也。是則隆尊者、御在世中之階定也。

十八丁ウ

寛正五甲申。隆尊者、世壽八十又一歳。二月中旬

集の門弟之而、讖爾の謂曰ハク。應に不越へ於句之而、歸レ寂ニ也。至吾

没後ニ、勿レ廢法ヲ為シ。汝等死身弘法之於晝夜學業也。廢ニ學業ヲ者、

則廢ル法也。若シ廢ヘ未來ノ末輩不學短才ニシテ、弘經ヲ者、乃シ為ニ

月明カ之流類本迹一致者、謗法闡提ノ徒、直ニ被テ誑惑ヲ終ニ

成シ彼ノ徒ノ奴隸ト。使テソント不自ラ必墮無間スルノミ、將亦墜於於本化ノ大道ヲ

于地上、即亦、威中無於衆生成佛也。應レ慎ム當レ懼ル也。亦復吾カ年

來之行事、聊カ不レ可レ懈。亦常ニ有レ可レ為ニ口號。謂。他宗權門、

徒者、則シ謗法ノ者也。法然・弘法・慈覺・智證等ハ者、則シ大諦法、

者也。天下ノ一致者流ノ者則シ大々謗法ノ者也ト矣。此ノ言ト良

十九丁ヲ

有以哉。斯レ吾カ門ノ格言、万代不易ノ龜鏡也。何ニ語トカカ過レ之ニ。呼レ魏々タル哉。厥レ蕩々タル哉。尋テ曰。有ニ宗門祖意之興廢ハ者、併、

日隆大聖人算縁誌 上下

末弟等カ信否ニ、當（當座、）下ニ啓シ余乎手ヲ、啓シ余カ乎足上。子等其（つとめよ）勵ム焉。

二月廿四日。從ニ日没ニ、向ニ懸敷合掌ヲ而、大曼茶羅（マニ）、薰香

揚燭ヲ而、北面端座ス。至ニ二十五日辰刻ニ、自ラ鳴シ孤磬ヲ、揚シ要

品ヲ。門弟子從レ之ニ方ニ臻（た）神力ヲ偈（）於ニ如來滅後ノ句ニ、亦一磬ヲ

而、紆（ゆる）々トク、緩誦ス。偈竟テ、始シ首題ス。自ラ唱ヘ、衆亦興（こも）之ヲ。終（えんぜん）奄然トシテ化ス

焉。老若ノ諸子悲歎シ、而シテ流（し）於ニ淚ニ、貴賤ノ檀越、街（や）ニ於聲ヲ。似（に）鴉（）

飛鳥モ催シ別離ノ鳴ヲ、桃李モ現（あらわ）哀戀（あ）之色ヲ矣。宜（な）ナル哉。本化地

涌シ菩薩摩訶薩非滅現滅、非生現生、大勢威猛力、大

十九丁ウ

禪寂力（）而、瀾（な）德澤於四海ニ、及（）重恩於禽獸草木ニ。呼（）、天

然如（）。亦何（）可（）誣（）耶哉。廿七日申ノ刻而、御入棺

二十九日午ノ刻而、茶毗。

諸門弟子、修シ盡七日之大法會ヲ、作禮而去。

後弟小苾芻（）舜龍日蒼、謹而、拈（）筆ヲ、唱（）云（）。

南無大勇猛精進力末法相應本門八品本因下種乘

再興之大導師本化涌出之菩薩摩訶薩尊者

日隆大和尚誓首合掌數聲百拜（以上隆聖人伝記部終わり、以下は略します）

⑮ 「慨然」(がいぜん)、角川の『新字源』によれば、いきどおりなげくさま・悲しみなげくさまの意

⑯ 「苑園」(えんゆう)、角川の『新字源』によれば、鳥やけものを放し飼いにしている園の意

⑰ 「午年

人王百二代稱光院御宇元助叛逆小泉紋之助串田安左衛門両悪臣の二行が、欄外に別筆で書き込まれている。

⑱ この一文は本文のままであるが、「隆尊は、海濱に立て誦題す」と読むべきであろう。

⑲ 信宿(しんしゅく)とは二泊すること。『春秋左氏伝』に「一宿為_レ舎、再宿為_レ信、過_レ信為_レ次」とある。

⑳ 「桃李不言(ものいはざれども)下目成_レ蹊」『史記』(李將軍伝賛)

㉑ 「知己(ちき)、士_ハ為_二知己_一者_ヲ死_ス。」『史記』(刺客伝)

- ②② 蘭若（らんじや） || 阿蘭若のことか。（阿練若あれんにやも同意語）
- ②③ 「風かに」は、「かすかに」と読むのであろうか。
- ②④ 「哉乃仁者」は、「かのじんは」と読むのであろう。
- ②⑤ 「釣連として」は、「釣連として」の間違いであらう。
- ②⑥ 「豁平ワツ」で、（かつたり）と読むのであろうか。
- ②⑦ 「沸」の字は、普通水が沸騰する意に用いられるが、泉が湧き出る意にも使用される。
- ②⑧ 「豎」字は「豎」字の俗字、「毛豎」とは、おそれて毛をさかだてること。
- ②⑨ 「髣髴」とは、「ほうふつ」であり、「彷彿」と同意。
- ③⑩ 「薬簡」とは、「薬」とは「屋久島」のことで、「簡」とは「口之永良部島」のことであろう。

③1 「口之永良部」と「本因妙を簡ぶ」とをかけたものであろう。

③2 「屋久島」と「本因妙の利益島」とをかけたものであろう。

③3 「旬」(じゅん)とは、十日間のこと。

③4 この一文の返点は、原文にしたがったが、漢文の法則より、はみだしているようである。この一文は、「自
ら、墮無間するのみにあらず、はたまた本化の大道を地に墜とされしめん。すなわち亦、衆生成仏を滅無
せしめん。」と訓ずるのであろうか。

③5 「過之」の次に「乎」の字があるが見消である。

③6 「勗」字は「勗」字の譌字、「勗」字は、「つとめる・はげむ・はげます」の意。

③7 「紆」字は、『説文解字』によると「紆、緩也。从糸予聲。」とある。

③8 「苾芻」(びっしゅ)とは、「比丘」と同じ音写で、「比丘」は旧訳、「苾芻」は新訳。舜龍日蒼師は、「苾芻」
と記しているが、普通は、「苾芻」の字をあてる。

日隆大聖人募縁誌 上下

付 記

本文を活字にするにあたり、可能な限り、原文に忠実に活字にした。また校訂者が添加した文字等は、（ ）を付して原文と区分し、なお原文に句読点を付して、読者に便ならしめた。

(校訂 和田 晃 尚)